

佐原は書籍の注文をするために、書店に電話を入れた。

「はい、佐々木書店でございます」

「すみません、本の注文をお願いします」

「かしこまりました。それでは書籍名と出版社名をお願いします」

「本の名前が『発明家を目指す三十の方法』、出版者は富士実業出版社です」

「著者名はおわかりになりますか？」

「星野春美です」

「お調べ致しますので少々お待ち下さい・・・お待たせ致しました。ただ今お調べしましたが、星野春美という著者名で『発明家二十の方法』という本は出版されていないようです。早川久江という名前でしたら登録されているようですが、お名前に間違いはありませんか？」

「すみません！ 著者名は早川久江になります」

「はい、かしこまりました。そうしますと申し訳ございませんが、こちらの本は在庫切れとなっておりますので、お取り寄せとなりますが」

「取り寄せてもらうとしたら、日数はどれ位かかりますか？」

「早ければ水曜日の昼頃、遅ければ三週間位お待ちいただくようになってしまいます」

「わかりました。では注文をお願いします」

「かしこまりました。それでは、お客様のお名前とご連絡先のお電話番号をお願いします」

「佐原博(節子)です。連絡先は090-3881-4738です」

「確認させていただきます。お名前が佐原博(節子)様、お電話番号が090-3881-4738ですね。ご注文は富士実業出版社の『発明家を目指す二十の方法』こちらの代金が3883円となりますがよろしいでしょうか？」

「はい、結構です」

「それでは、本が入荷出来次第ご連絡させていただきます。担当の白井が承りました。ありがとうございます」

数日後、佐原の携帯電話に富士書店から電話が入った。

「はい、佐原です」

「こちら佐々木書店と申しますが、佐原博(節子)様でいらっしゃいますか？」

「はい、佐原です」

「こちら佐々木書店でございます。先日ご注文いただきました書籍が入荷されましたので、佐原様のご都合の良い日に三階のサービスカウンターまで取りにお出度ください」

「はい、わかりました」

「お待ちしております。失礼致します」